



東北大学病院ジェネラリスクマネージャー  
村井ユリ子さん

東北大学医学部附属病院では“専任の医療安全管理者”(GRM)として1人の薬剤師が活躍している。ベテラン薬剤師の村井ユリ子さんだ。所属は院長直属の独立組織「医療安全推進室」であり、古巣の薬剤部に対しても医療安全の徹底を求める立場だ。医師や看護師のGRMと共に、毎日、各部署からあがってくる多数の「インシデントレポート」に目を通し、分析、対処する。院内研修会の企画・運営など多様な業務を通じ、陰に陽に安全な医療の推進を支えている。

**院長直属の「医療安全推進室」に所属**  
薬剤師の目でインシデント事例を分析

村井さんの所属する医療安全推進室は、病院全体のリスクマネジメントを担当する組織として、5年ほど前に設置された。その後2002年には、大学病院などの特定機能病院に、GRMを置くことが国の施策として義務づけられた。その要件は医師、歯科医師、薬剤師、看護師であり、同院で最初に専任GRMとして配置されたのは看護師であった。続いて兼任の医師が1人、さらに05年に薬剤部を代表して村井さんが送り込まれた。この部署にはそのほか、兼務の形で臨床検査技師、理学療法士など幅広い領域から、30人を超える人材が室員として投入されている。

村井さんは「一般的には看護師が中心で、薬剤師はマイナーな立場だが、それぞれの立場から協力していくことが必要」と語る。チ

# 医療の安全を守る専任薬剤師

## 私の職場

ームの中で、それぞれが専門性を十分に発揮し、患者には安全な医療を、医療従事者には安全な環境を整備していくことが求められる。まさにベテラン薬剤師でなければ務まらない業務といえる。

院内はLAN環境が整備され、各部門から医療事故には至らなかったヒヤリハット事例が、“インシデントレポート”としてオンラインで報告されてくる。それらに目を通し、適切に対処することが、重要な役割の1つだ。一見単純なミスに見える事例でも、その背景に薬に係わるケースも多いという。例えばインシデントの内訳では、3番目に多い項目として、病室やトイレなどでの転倒、

看護師、医師らと連携して業務を遂行



## 臨床分野の知識不足を痛感、戸惑いも関係者の調整図る仕事へ積極的関与を

村井さんがGRM業務に就いて最初に困ったのは、「全く臨床のことにに関する知識がない」ことで、「インシデントの内容をイメージすることに苦労した」そうだ。ベテランでさえ病態、診断・治療、手技、医療用具などに関する知識不足を痛感するという。「卒業した何十年も前の頃には、こういう分野に仕事広がっていくとは想像もつかなかった。

## GRMの業務

- インシデントレポートの確認  
聞き取り、対策立案、解決の支援
- 重大事例への対応  
記者会見準備(PP、Q&A)
- インシデントレポートの集計・解析
- 事例紹介(RM会議、各種委員会、広報紙等へ)
- WGの支援
- 講演会・研修会の企画運営
- 病棟巡回

対応

予防

ベッドなどからの転落事例があるが、「一見患者本人の不注意かと思っても、実は催眠薬や抗がん剤による痺れで足下がふらついていたなど、薬剤がバックグラウンドにある例も多い」と指摘する。そういう面で村井さんには、「薬の専門家の目」で症例を分析し、対応策を提示することが求められている。

今後の6年制での臨床教育に期待したいところ」と話す。

この仕事に取り組んでの印象を村井さんは、「1つの職種では医療は成り立たないという真の意味のチーム医療を実感できる。私がGRMになったことで、院内でも医療安全に薬剤部・薬剤師が関わっていることの認識が強まったと思う」と語った。

また、外部から薬剤部業務を見て「看護師に対する支援、与薬場面でのリスク削減を具体的に考えなければならない。最低限、薬剤業務を保障するシステムを作る必要がある」と指摘した。具体的な対策やシステムの提案・実行が期待されることだ。

最後に「他の部署との仲立ちをしなければならないところ。DI、薬剤管理指導など、どの場面でも関係者間を調整するという仕事は薬剤師に必要。その延長線上で、力を持った人にこういう仕事に就いてほしい」と述べた。



### 正会員(17社)

- |   |   |  |
|---|---|--|
| 株式会社ACRONET<br>http://www.acronet.jp                    | クロノバ株式会社<br>http://www.cronova.co.jp              | 株式会社ベルシステム24<br>http://www.bell24.co.jp        |
| 株式会社アスクレップ<br>http://www.asklep.co.jp                   | シミック株式会社<br>http://www.cmick.co.jp                | 株式会社三菱化学ピーシーエル<br>http://www.mbcl.co.jp        |
| イーピーエス株式会社<br>http://www.eps.co.jp                      | 株式会社新日本科学<br>http://www.snbl.com                  | 株式会社メディサイエンスプランニング<br>http://www.mpi-cro.co.jp |
| 株式会社エスアールディ<br>http://www.cro-srd.co.jp                 | 東京CRO株式会社<br>http://www.cro.co.jp                 | 株式会社モスインスティテュート<br>http://www.moss.co.jp       |
| 株式会社MICメディカル<br>http://www.micjp.co.jp                  | 株式会社日本アルトマーク(東京・大阪)<br>http://www.ult-tokyo.co.jp | 株式会社ラビトン研究所<br>http://www.rabiton.co.jp        |
| クインタイル・トランスナショナル・ジャパン株式会社<br>http://www.quintiles.co.jp | パレクセル・インターナショナル株式会社<br>http://www.parexel.co.jp   |  |

### 準会員(10社)

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 株式会社アイコン・ジャパン<br>http://www.iconclinical.co.jp  | メビックス株式会社<br>http://www.mebix.co.jp |
| 株式会社システムインナカゴミ<br>http://www.sin.co.jp          | ユックムス株式会社<br>http://www.yukms.com   |
| 株式会社総合臨床薬理研究所<br>http://www.sogo-rinsho.jp      |                                     |
| 株式会社ティーティーシー<br>http://www.ttc-tokyo.co.jp      |                                     |
| テムリック株式会社<br>http://www.tmr.co.jp               |                                     |
| 株式会社東京臨床CRO<br>http://www.tokyorinsho-cro.co.jp |                                     |
| 株式会社日本科学技術研究所<br>http://www.i-juse.co.jp        |                                     |
| 株式会社富士バイオメディックス<br>http://www.fbm.co.jp         |                                     |

### 賛助会員(11社)

- RCCリミテッド日本支社  
株式会社イベリカ  
株式会社インクルーシブ研究所  
コープリッジ株式会社  
シミックCRC株式会社  
株式会社シミックCP  
株式会社シミックBS  
株式会社チャールサイエンス  
東京メディカルCRO株式会社  
メディカルインフォーマティクス株式会社  
株式会社メディカル・エコロジー

# 日本CRO協会

お問合せ先：日本CRO協会事務局(篠原国際法務事務所内)  
TEL 0120-353-125 FAX 0120-353-126  
URL: http://www.jcroa.gr.jp E-mail: info@jcroa.gr.jp (社名順不同)